

「地域の人とのかかわりを通して」

『地域ふれあいサロン』の取り組みから

「次」に肩たたきをしまし「もうちょっと強くしてくれるか」「気持ちよくなったわ。」「ありがとうございます」昨年年度から平屋小学校が始めた『地域ふれあいサロン』の1コマです。学年ごとに校区内の公民館などへ出かけ、学習の成果を発表したり、来ていただいた方と一緒にゲームや遊び、話をしたりして交流をしています。今年度は4地域で行いました。『地域ふれあいサロン』は、「学校からちょっと地域に発信していこう」「いろいろな人との交流の機会を増やそう」との考えのもと、「思いやりの心を持ち、実践する子どもの育成」というテーマで取り組んでいます。

この取り組みは、子どもたちが中心になって計画し、進めていきます。お年寄りの方や平日頃は交流の機会がほとんどない方も多く来られるので、どんなことをどのようなしたら喜んでもらえるだろうかと思いを巡らせ、相手のことを考えながら計画を立てました。当日は、学習発表をした後、肩たたきなどの直接のふれあいや、かるたやこま回し、おはじきなど

の昔の遊びで交流を深めました。肩をたくたく強さや、声の掛け方など、子どもたちなりに考えて行動している様子がうかがえました。そして、参加していただいた方からの「ありがとう」の言葉で、自分たちで考えて取り組んだことを認めてもらえた喜びを感じ、相手を思いやることの大切さを実感できたのではないかと考えます。

自

分たちが地域の方々から大切に思っていていただくこと



▶強さは大丈夫ですか？

(平屋小学校 人権教育主任

小寺 功彦)

を感じると同時に、子どもたちも地域の方々のことを知り、思いやりの気持ちを持って接するこの経験はとても大切なことだと考えています。今後さらに「思いやりの心を持ち、実践する子どもの育成」を目指し、校内での取り組みと併せて、地域の人とのかかわりを有効に活用して、本校の人権教育を推進していきます。

環・境・市・民 ～感激！エコ発見～



市内で発見した感激のエコ活動を紹介します。

桜並木が連なる八木町大堰川の河川敷は子どもからお年寄りまで老若男女を問わず、多くの人々が訪れる憩いの場となっています。

とうとうと流れる大堰川を見ながら風に吹かれて歩いてみると、日ごろのストレスから解放され、とても豊かな気持ちになれます。

そんな癒しの空間を長年見守り続ける坂本義昭さん。堤防沿いのゴミ拾いや草刈り、樹木の剪定、水やり、落ち葉拾いなど、30年以上も前からボランティアで活動を続け、今年6月に京都府の「環境保全功労者表彰」を受賞されました。

今回のエココメント

坂本義昭さん

(八木町八木)



「小さいときからここに住んでいるので、川遊びを



したり、川下りを見たり、本当にたくさん思い出があります。大切な場所ですから自分できれいにするのは当たり前のことだと思っちゃっています。いろいろなまちを見てきました。自分のまちは自分できれいにするというのはどこでも同じだと思います。ここで作業をしていると自分の運動にもなるし、来られた方に『いいところですよ』と喜んでもらえるのが嬉しくて、いつまでもやめられないです」

(環境課)